地域がつくる暮らしやすさ

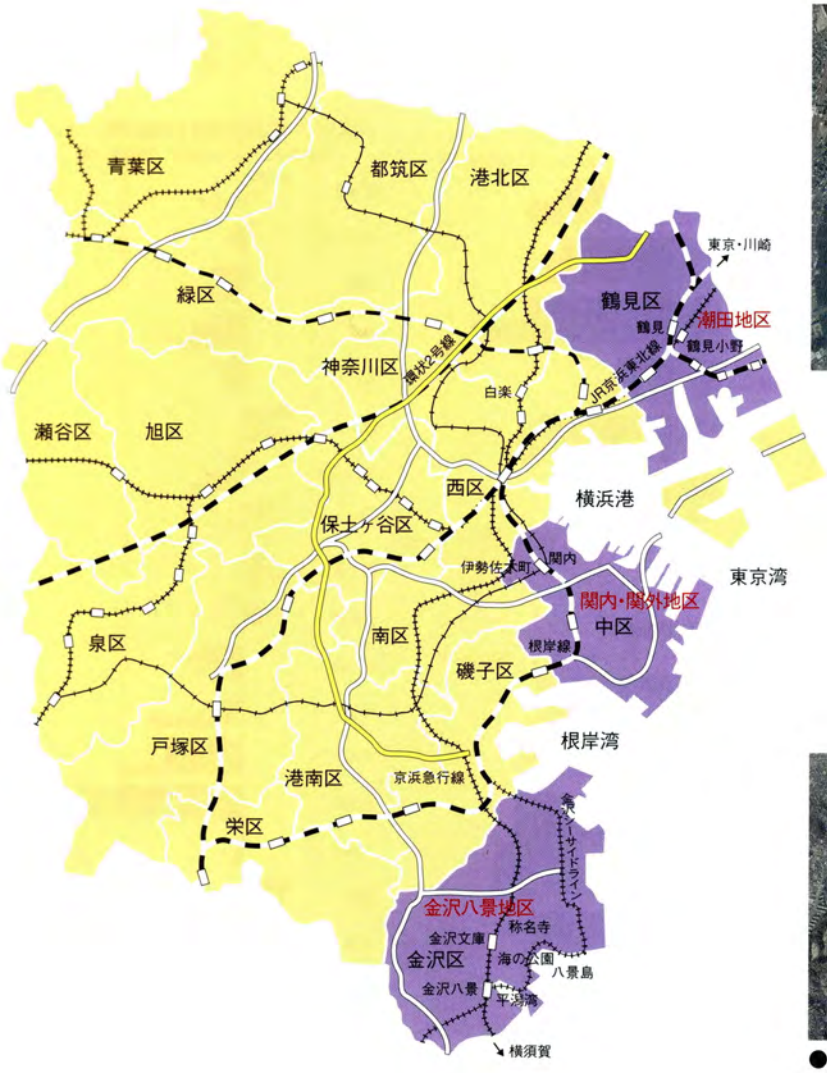
Part 1

臨海埋め立て市街地

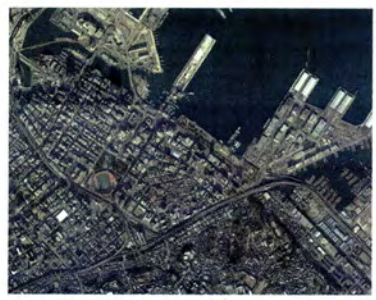
港と工業地帯が織りなす横浜のモダンな下町エリア

関内・関外地区（中区）　潮田地区（鶴見区）　金沢八景地区（金沢区）

横浜の近・現代史は海岸線の埋め立ての歴史だと言われている。
事実、開港以来、最初に形成された市街地は、河川の河口域のデルタ地帯や内湾の浅瀬を埋め立てたものである。それらの市街地は、同じように湾岸を埋め立てて造成された港湾施設や工業地帯、すなわち就労の場と一体のものとして形成されており、職住近接の、場合によっては、遊・学の機能も備えたマルチエリアであった。
その意味で、住民の生活圏がコンパクトに収まった、横浜で最初に生まれた下町であった。また、歴史的にみれば、開港以来、関東大震災、第2次世界大戦、戦後の高度経済成長とその時々の社会潮流や政治経済の変化を敏感に反映し、横浜というよりも、日本の近・現代史の痕跡が街の景観やコミュニティに刻まれている「みなとまち」である。
ここでは、そのような横浜の臨海市街地の中で、「関内・関外地区」、「潮田地区」、「金沢八景地区」を取り上げ、横浜の海岸線とともに移り変わってきたそれらのまちの現在とこれからのまちづくりのあり方について考えてみよう。



●潮田地区


●関内・関外地区

●金沢八景地区